



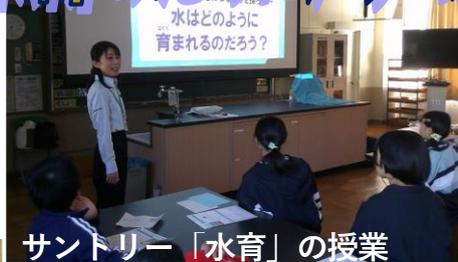
校長室だより

令和6年度
11月19日
NO.34

いざという時の「未来」のために、「今・げんざい」に学ぶ!



防災出前授業



サントリー「水育」の授業



秦梨生活文化教室



体育館舞台上に映るVR映像、浸水した世界を、子供たちは食い入るように見ていました。今年の「秦梨生活文化教室」では、親子で「防災」について学びました。VR視聴体験では、いずれを選択してもそこに危機はあり、緊急時の判断の大切さと難しさを感じました。中部地域づくり協会の方から、「これまでの経験が、行動につながる」と聞きました。「防災」という未来に対して、「過去」の経験が、「安全」への思いを強くすると教えてくれました。

十八日にはサントリーの方を招いて、四年生以上で「水育」の授業をしました。水害を引き起こさないためにも「森林」を守ることが大切であり、「未来」を考えて「今」にできることをしていかなければならないと分かりました。「汚い水を捨てない」等、子供たち自身、自分事として考えるきっかけとなりました。

それに先立ち六年生は、市の防災課の方から話を聞き、避難所体験をしました。実際に、教室に段ボールベットを作り寝てみて、避難所での暮らしを想像しました。「防災」は、目に見えない「未来」について考えますが、実際に被災した「現在」を体験することも大事だと感じます。災害は誰のせいでもないからこそ、その環境の中で生きていくことは、自分の責任になります。

秦梨生活文化教室で紹介した「海よ光れ！」(田沢五月著は、二〇一一年三月十一日の東日本大震災で被災した岩手県の大沢小学校のお話です。被災して皆がづらい避難所生活の中で、子供たちは被災者のために行動します。もし、自分たちがその状況に置かれた時、同じように行動できるか、それを考えると、大沢の子供たちの心のたくましさを感じました。こうした被災した中で大切なのは、「思いやりの気持ちを持つこと」や「みんなで協力し合うこと」だと、改めて思いました。どんな「未来」においても、未来を想像し、生き抜く力を養うのは「今」なのだと思えます。

〇11/13「さえずり」さんの読み聞かせがありました 「てんてんきょうたい」(山田慶太)、「てん」(ピーター・レイ川ズ)「カラスウリ」(有沢重雄)、「なんとニャンコうんこ4こ」(おおかたにけんた)、「やさいのはな なんのはな?」(宮崎祥子)、「さがしもの」(森洋子)、「てぶくろをかいいこ」(新見南吉)、「となりのととろ」(中川李枝子)、「あかいまる なーにこ?」(せなけいこ)、「てんごく」(新美南吉)、「富士山うたごよみ」(俵万智)、「ときそば」(川端成)